

## 平成 28 年 度 自 己 評 価 表 ( 最 終 評 価 )

鳥取県立米子白鳳高等学校

<b>中長期目標 (学校ビジョン)</b>	多様な学習歴やニーズを持つ生徒の学習を支援し、社会で共生する資質と自立の基盤となる能力・態度を育む。	<b>今年度の 重点目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「学ぶ意欲」の喚起・育成</li> <li>2 心豊かに他と共生する態度の育成</li> <li>3 社会的自立の実現</li> <li>4 地域・社会との交流推進</li> </ol>
---------------------------	--	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 ( 1 ) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 「学ぶ意欲」の喚起・育成	○授業、面接指導(スクーリング)改善への取組	○授業を大切にできる態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。	○ユニバーサルデザインを意識した授業 ○先進校の取組を本校の現状に合わせた取組	○ユニバーサルデザイン、合理的配慮についての職員研修を行った。 ○授業への出席率は高いとは言えないが、継続して声かけを行った。	<b>B</b>	○ユニバーサルデザイン、合理的配慮に基づいた授業を全職員で具体的に推進する。 ○先進的な取組を全職員で共有し取り入れていく。
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた環境を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が、安心して学校生活に取り組むことができる。	○白鳳サポーターによる交流の推進 ○各課程会議参加における情報交換により、情報を共有し、迅速な支援体制の確立 ○SC、SSW、白鳳サポーターなどとの情報共有	○各課程会議での情報共有やSC、SSW、白鳳サポーターとの情報共有を行った。 ○白鳳サポーターが授業に入ることで、生徒同士、生徒と教員の交流が促進された。	<b>B</b>	○共有した情報をもとに、具体的な個々の支援方針を検討していく。 ○中学校からの引継ぎを活用していく。 ○各種教員研修を活用して、教員の生徒理解を促進する。
	○ICT教育の推進	○ICT化の進展に伴い、情報活用能力の育成が急務である。	○ICTを積極的に活用できる。	○情報教育の充実 ○NHK高校講座のICT活用 ○各教科科目でのICT(タブレット、電子黒板)活用	○電子黒板・タブレットの活用についての職員研修を継続的に行っている。 ○着実に活用される授業は増えている。 ○APの増設など環境整備を整えつつある。	<b>B</b>	○iPadを含めたICT機器の利用を推進するよう職員への研修と情報提供をする。 ○簡単に利用できるような環境をさらに整備する。
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○規律指導	○挨拶、言葉づかいなど基本的な生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉づかいを使うことができる。	○欠席、遅刻、早退報告の徹底 ○積極的な挨拶、声かけの実践 ○社会人として必要な言葉づかいの指導	生徒指導件数の多かった年度ではあったが、学校自体は全体的に落ち着いていた、挨拶等も概ねできていた。ゴミの分別が中々出来ない。	<b>B</b>	○今後も、学校生活を通して教員側が粘り強く声を掛け指導していく。
	○自己理解・他者理解の促進	○コミュニケーションの促進により、人間関係力の育成をする環境づくりが必要である。	○他者理解がすすみ、生徒同士の信頼関係も醸成し、クラスが居心地の良い場となる。	○Hyper-QU検査の活用 ○「自己理解・他者理解アプローチ」の活用(生徒向け講演会、教員研修)	○講演会等を活用し、教員の生徒理解、生徒の自己理解が深まってきた。	<b>B</b>	○人権教育や性に関する指導のLHR等での講演会や学習を通じて、生徒の自己理解、他者理解を促進する。
	○体験活動をととした社会性の育成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高める必要がある。	○諸活動において、自信と責任を持って、役割を果たしている。	○チャレンジものづくり体験 ○テーブルマナー講習会 ○乗馬体験 ○文化祭の充実 ○校外研修 ○蔵書点検ボランティア	○多くの集団活動を通して、生徒の社会性が育ち、いきいきと学校生活が送れるようになった。	<b>B</b>	○今後も引き続き体験活動の充実を図っていく。

年 度 当 初					評 価 結 果 ( 1 ) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 社会的自立の実現	○進路指導の充実	○経済・社会環境や雇用情勢の変化に対応するため、早期から進路に対する意識づくりをする取組が必要である。	○進路に対する意識を持ち、個々の適性にあった進路選択をすることができる。	○卒業生と語る会 ○就職・進学講演会 ○C A と連携した職業選択 ○学年団と進路部との連携 ○フォーマルデイの実施	○各種のキャリア教育事業・方策等をおとして、進路意識が高まった。	B	○社会人基礎力をつける様々な企画を実施し充実をはかる。また、新しく作成した生徒向け進路Webを活用し、計画的な進路指導を行う。
	○「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の取組が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて徐々に身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習発表会 ○陶芸製作 ○マナー講習会 ○社会人講師の活用	○自立に向けた活動を系統的に実施し、改善が進んだ。 ○学習発表会は、全学年の取組となり、充実した内容となった。	B	○担当者会議を定期的に行き、自立に向けた活動を系統的に企画・実施をする。
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○個々の生徒が、それぞれのニーズに応じた進路実現を図っている。	○学校・事業所見学 ○ハローワーク・しゅうと等の就労支援機関との連携 ○インターンシップ ○若者サポートステーションとの連携	○個々の生徒のニーズに対応して関係機関と連携し、進路実現に向けて生徒はスキルアップした。	B	○就労支援機関との連携により、職業適性に関する自己理解への支援、就労体験などによる就労に向けた支援を行う。
4 地域・社会との交流推進	○地域資源（文化、人材）の活用	○地域の文化を理解し、地域の方との交流により、地域・社会とのかかわりを持つことが大切である。	○地域理解を深め、社会参画の必要性を理解している。	○異世代（高齢者、保育園児）交流 ○さつまいも（植付・収穫・会食）を通じた保育園児との交流 ○銭太鼓製作、体験 ○白鳳の里古代の丘生活体験	○地域の人々や文化に触れることで、他者との関わりや地域のつながりを学ぶことができた。	A	○今後も地域との交流活動や文化的活動を続け、地域理解を深めていく。
	○地域・社会に積極的に情報発信し本校への信頼を高める。	○本校の取組が、保護者・中学生・地域の方に理解され、評価されることが求められる。	○本校の教育活動内容が、保護者・中学生・地域の方に理解されている。	○特色ある教育活動の情報を発信 ○その都度、速やかにホームページへ掲載できる体制づくり	○白鳳トビックスとして特色ある教育活動を発信できた。 ○ホームページのシステムを改修により速やかに掲載できる体制が整った。	B	○ホームページについては、今後も引き続き速やかな情報発信を行う一方、P T A 活動等の記事を増やすなど内容を充実させていく。

評価基準 A:目標を達成している B:ほぼ計画どおり推進している C:取組がやや遅れている D:一層の取組が必要である E:目標・方策の見直しが必要である  
 <100%> <80%程度> <60%程度> <40%程度> <30%以下>